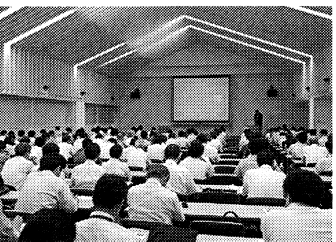


# 東京会場満席の盛況ぶり

## コンクリート補修でフォーラム J CMA



コンクリートメンテナンス協会（J CMA、徳納武使会長）が札幌から那覇まで全国25か所で開催中の『コンクリート構

造物の補修・補強に関するフォーラム』補修工法の選定の考え方と適応性』は20日、東京・新宿区の飯田橋レインホール大会議室で開かれ、建設コンサルや自治体、コンクリート関係者ら約250人が参加した写真。

当初の申込受付では150人を予定していたが、希望者が殺到したため急ぎよ定員を拡大。しかし、会場は満席となる盛況ぶりでコンクリート補修・補強への関心の高さを示していた。

講演に先立ち挨拶した

化や劣化」に対応する補修工法、補修工法選定の考え方など劣化要因に応じた補修工法選定の考え方、亜硝酸リチウムを用いた塩害・中性化・ASRの補修など、亜硝酸リチウムを用いた補修工法などについて詳しく解説した。

第2部では、日本ペイント販売の中丸大輔氏が『コンクリート剥落防止

と塗膜型剥落防止システムについて』と題して、塗るだけでコンクリート片の剥落を防止できる塗膜型剥落防止工法などの説明を行った。

同フォーラムは、6月25日の奈良をはじめ大阪（26日）、兵庫（27日）の関西へ。九州・四国地方を経て、8月8日の札幌で最終日を迎える。

徳納会長は、「きょうは12か所目の開催となり、折り返しに差し掛かる。毎年フォーラムを開催しているが、今年は補修工法の選定の考え方に重点を置いて解説している。当協会はいわゆる工法協会ではない。補修・補強に関する有効な工法を議論しながら、良い工法を紹介するのが協会であり、フォーラム開催の狙い」と説明した。

講演の第1部は、極東興和の工学博士・江良和徳氏が『コンクリートの劣化と補修工法選定の考え方』と題して、塩害や中性化、アルカリシリカ反応（ASR）などコンクリート構造物の主な劣